

美濃國
關ヶ原

〔和漢三才圖會七十〕從美濃國到近江木曾路〇中

關ヶ原一里古有關名不破關有野上宿

〔美濃明細記十〕名所和歌關ヶ原不破郡にあり秋庭覺に名所に入たり

〔關原始末記下〕かくて石田治部少輔三成は、其夜中に大垣の城を出て、牧田通をへて不破關原へ

出張し、小關の宿の北の山際に陣を取る。石田が家老島左近先手なり、其左の山ぎはに、織田小洞

信高并大阪黃母衣衆段々にひかへたり、島津兵庫頭、同又八郎は石田が後ろに陣をとる、其南は

越前海道より關原の本道を限り、宇喜多中納言、小西攝津守、大谷刑部少輔、同大學、平塚因幡守、戸

田武藏守等、段々に陣を張る、其西の方本道の南松尾山の下に、筑前中納言、并脇坂中務朽木河内

守、小河左馬助陣を取る、南宮山の後ろには、長束大藏少輔安國寺、吉川長宗我部等陣をとる、

明れば十五日寅の刻に、御先手福島左衛門大夫方より使者として、祖父江法齋御本陣へ參て、石

田大垣出て、關原へ出陣の趣を注進す、依是則家康公御出馬有て、關原本道の南兩宮山の北のは

づれに御本陣をすへさせたまふ、御先手藤堂佐渡守、本多中務少輔、福島左衛門大夫等は、本道の

南の方に陣をとる、松平下野守殿、井伊兵部少輔、田中兵部少輔、細川越中守、金森法印、加藤左馬助

黒田甲斐守、竹中丹後守等は、本道より北方に陣をとる、池田三左衛門、淺野左京大夫、三河、遠州駿

河勢は、御旗本の後陣として、本道より北方に陣をとる、是は南宮山の敵の御手充なるべきか、堀

尾信濃守は大垣の押に仰付られ、其道筋に陣をとる、

〔書言字考節用集一〕會信濃原信州與濃州界

〔和漢三才圖會六十八〕園原 在小縣郡 伏屋在小諸之山邊

〔信濃奇勝錄四〕園原

園原は、往古の官道にて、美濃國坂本より五里餘、惠奈嶽神御坂を越て園原に至る、

信濃國
園原